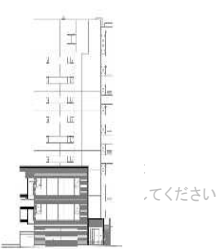


# CASBEE<sup>®</sup>さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)K様さいたま市南区南本町1丁目	階数	地上10F
建設地	さいたま市南区南本町1丁目8-1,8-2	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域、地区計画地域	平均居住人員	75人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	物販店、飲食店、集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2023年4月11日
敷地面積	693㎡	作成者	スターツCAM(株)建設技術本部一級建築士事務所
建築面積	415㎡	確認日	2023年4月11日
延床面積	2,887㎡	確認者	スターツCAM(株)建設技術本部一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能 5  
Q1 室内環境 3  
Q3 室外環境(敷地内) 2  
LR1 エネルギー 2  
LR2 資源・マテリアル 2  
LR3 敷地外環境 2

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR のスコア = 3.1

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	さいたま市内における共同住宅として、敷地内に適切な量の駐輪場を設け、周辺道路や環境へ配慮した計画とした。	その他 特になし。
Q1 室内環境	室内環境については内装材を全面的にF☆☆☆☆のものを使用することで配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 植栽や外構について敷地内に適切な量の計画を行い、環境へ配慮を行った。
LR1 エネルギー	住戸平均で外皮性能について日本住宅性能表示基準の断熱等性能等級に おける等級3相当とした。	LR3 敷地外環境 照明による光害に対して、チェックリストを活用し適切な対策を行い、敷地外への配慮をした計画とした。
Q2 サービス性能	住宅部の居室天井高さをH2.55mを確保し、広さ感に配慮した。 また、配管類の更新必要間隔についても耐用年数の長い材料を採用し建物のサービス性能へ配慮した計画とした。	
LR2 資源・マテリアル	部材の再利用可能性向上への取組みを行った。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■ LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEEさいたま2016年版**  
 (仮称)K様さいたま市南区南本町1丁目計画 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		基本設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-	<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.7</b>	0.15	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.4</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.47	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音		<b>4.8</b>	0.47	<b>3.6</b>	0.50	
1 開口部遮音性能	遮音性能T-2を採用	5.0	0.91	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.09	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.06	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.8</b>
2.1 室温制御		<b>2.3</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 室温		3.0	0.58	3.0	0.63	
2 外皮性能		1.0	0.31	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.11	-	-	
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.4</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.0</b>
3.1 昼光利用		<b>2.1</b>	0.47	<b>4.0</b>	0.30	
1 昼光率	面積の大きな窓を採用	1.0	0.41	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.59	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		<b>2.0</b>	0.20	<b>4.0</b>	0.30	
1 昼光制御	住戸部分は庇(バルコニー含む)設置、かつカーテンレールを設置	2.0	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.10	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.22	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.9</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.9</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.57	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質	ほぼ全ての建材にてF☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
4.2 換気		<b>4.0</b>	0.37	<b>4.0</b>	0.38	
1 換気量	基準法を満たす換気量の1.4倍以上となる設備を採用	5.0	0.50	5.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.06	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.4</b>	0.40	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	1.0	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>1.0</b>	0.30	<b>2.5</b>	0.40	
1 広さ感・景観	天井高2.5m以上	1.0	0.14	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		2.0	0.04	-	-	
3 内装計画		1.0	0.82	1.0	0.50	
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	LGSを採用	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.30	-	-	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.4</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	免振構造	5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.2</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の2種以上にB種を使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		<b>2.6</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.2</b>	0.30	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.1</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.6</b>	0.10	<b>3.2</b>	0.50	
1	階高のゆとり	階高2.9m以上	4.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.10	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	0.81	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕、更新できる	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>2.3</b>	0.20	-	-	<b>2.3</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = -	<b>4.0</b>	0.50	-	-	<b>4.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	0.32	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	0.68	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.5</b>	0.60	-	-	<b>3.5</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		高炉セメントB種 基礎、基礎梁	5.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		タイル(DNTO サーレイ) 外壁	3.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		LGSを採用	4.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率96%	<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.3</b>	0.33	-	-	<b>2.3</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン・広告物照明チェックリストの過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	